

水道料金シミュレーション 料金体系の考え方における比較表

資料 6

	②基本料金のあり方 (全体収入における基本料金の回収率)	③業務用料金の負担緩和 (家事用と業務用の料金割合)	④逓増性の緩和 (逓増度指数)	⑤公平な改定 (負担が急増するような改定でないか、 偏りのある改定でないか)	その他	
現行の料金体系	23.6% ※理想形37.9%	家事用：59.5% 業務用：40.5%	3.38	—		
用途別	シミュレーションNo.1 一律15%UP	23.6%	家事用：59.5% 業務用：40.5%	3.38	一律15%UPであり。全てにおいて公平な改定。	
	シミュレーションNo.2-1 基本料金回収率37.9%	37.8%	家事用：62.3% 業務用：37.7%	1.90	業務用の低水量使用者の料金が急増する。	
	シミュレーションNo.3-1 基本料金回収率37.9% 従量料金単一型	37.9%	家事用：79.4% 業務用：20.6%	0.92	家事用の低水量使用者の料金が急増する。また、業務用の高水量使用者の料金が激減する。	
	シミュレーションNo.4-1 従量料金一律15円UP	25.3%	家事用：62.0% 業務用：38.0%	2.94	急増、激減は発生しない。	5年前改定時と同様の体系
	シミュレーションNo.5-1 従量料金15円UPから逓減	26.8%	家事用：62.9% 業務用：37.1%	2.94	急増、激減は発生しない。	501m ³ 以上の従量料金の単価を従来単価から+5円に抑えることで、大口利用者の水需要を促す。
口径別	シミュレーションNo.2-2 基本料金回収率37.9%	37.8%	— (口径別では家事用と業務用が同料金のため、割合は無し)	2.02	家事用の低水量使用者、特に8m ³ 以下の基本水量以下の使用者の料金が急増する。	
	シミュレーションNo.3-2 基本料金回収率37.9% 従量料金単一型	37.8%	—	0.96	家事用の低水量使用者の料金が急増する。また、業務用の高水量使用者の料金が激減する。	
	シミュレーションNo.4-2 従量料金一律15円UP	25.7%	—	3.35	急増、激減は発生しない。	
	シミュレーションNo.5-2 従量料金15円UPから逓減	27.7%	—	2.88	急増、激減は発生しない。ただし、ごく少数の、口径と使用水量のかい離が大きい利用者については、料金増の割合が高い場合もある。	501m ³ 以上の従量料金の単価を従来の業務用単価から変動なしとすることで、大口利用者の水需要を促す。